

国語選抜試験

模範解答

■採点基準
記述式問題では、同意表現は可。書きぬぎの場合のみ、正答例以外は不可。

新小四

一 次の——線の読みを書きなさい。

(4)(1) 兄は世間知らずだ。
手品に興味があある。

(5)(2) 相撲の社会を角界という。
暗くなつて家路をいそぐ。

(3) 毛筆の練習をする。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

「かつかい」も可。

二 次の——線を漢字で書きなさい。

(4)(1) 自分のたんしよを直す。
心のあんていを保つ。

(5)(2) 電車がてつきようを渡る。
けいしきを踏んだやり方。

(3) 雨雲がさる。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

三 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 次の□にあてはまる最もふさわしい「つなぎ言葉」を、ひらがな一字でそれぞれ書きなさい。

(2)(1) 冬になった□、雪はあまりふらない。
友だちは作曲ができる□、歌もうまい。

(1)

(1)

(2)

(2)

問二 次の漢字の——の部分、何画目に書きますか。数字でそれぞれ書きなさい。

(2)(1) 皮放

(1)

(2)

①正しい筆順を覚えることが正しく美しい漢字を書くことにつながります。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

みとれているうちに、二ひきとも自分の力でつかまえたのだというれしさが、心の中にこみあげてきました。

(A) そのとき、クヌギの根元に、うごいたものがあります。はっとして見ると、一ぴきのコクワガタが、すごい勢いで土の中へもぐっていくところでした。

太郎くんは大あわてで、右手のコクワガタを、あいている左手の三本の指で、てのひらにかるくおさえこみ、あいた右手で、クヌギの根元の土をパツとかきまわしました。落ち葉のまじった黒い土は、いつも子どもたちがクワガタをさぐるので、ふわふわとやわらかです。こういうときはにげるひまをあたえないように、いきなりサツとやらなければなりません。

(B) ひっくりかえったコクワガタのオスが一ぴき、六本の足をちぢめて、まるで死んだようにじっとしています。

(C) 死んだふりをしているなど思いながら、太郎くんが手をださずに息をつめて見つめていると、やがてコクワガタは、足をキックキックとうごかしました。なんとか、おきあがろうと、もがいているのです。

(D) そのまま、わき腹をおさえたのでは、長く持っているうちに指をはさまれてしまうので、土の中の背なかのほうから、すくうようにして、つかまえました。

(注) クヌギ—木の名前。

(中島みち「クワガタクワジ物語」より)

問一 文中のにあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア カラカラと イ ゾロゾロと

ウ パラパラと エ ツツツと

① 直後の「すごい勢いで土の中へもぐっていく」とあるので、もぐる様子としてふさわしい言葉を考えます。

エ

問二 —線「ひっくりかえったコクワガタ」とありますが、このじつとしているコクワガタの様子をどのようにたどえていますか。文中から九字で書きぬきなさい。

① 直後の部分に注目します。

ま
る
で
死
ん
だ
よ
う
に

問三 土の中ににげたコクワガタを太郎くんはどここの部分のほうからつかまえましたか。文中から七字で書きぬきなさい。

土
の
中
の
背
な
か

問四 この文章では、次の文がぬけています。もとにもどす場合、(A)～(D)のうちどこが最もよいですか。記号を書きなさい。

・ウワァッ！ いました。

① ぬけている文は、土の中ににげたコクワガタを見つけたときの太郎くんの様子を表しています。

(B)

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

よひようは、ある日ひなにかかって苦しんでいた一羽の鶴つるを助けました。後日、よひようの家に一人の女の人(＝つう)がたずねてきて、二人は夫婦ふうふとして暮くらしはじめました。ある日、つうは自分の羽はねですてきな織物おりもの(ぬの)を作り、よひようにさしあげました。それは高いねだんでよく売れました。

よひようの頭の中は、はなやかな都へのあこがれでいっぱいでした。

①美しいさくらの下を、美しい車が行き来しているというあの都へ、一度でいいから行ってみたい。そしてたくさんのお金をもうけてくるのだ――。

何をしていても、何を聞いていても、よひようの頭の中はそのことばかりでした。

「あのぬのおおってくれ」と、どうとうよひようが言いました。

「えっ？」と、②つうはおどろきました。

おどろくはずです。もうあのぬのはおらないと、かたく約束やくそくしたのですから。

③「どうしてもぬのをおれ！ おらないと承知しよちしないぞ！」

つうの願ねがいはお金でも都でもなく、ただ、よひようと、二人で楽しくはたらきながら、いつまでもいつまでもいっしょに暮くらしていききたい、ということだけだったのです。

つうは悲しくて、気が遠とほくなっていくようなこころがしました。

つうは思わず雪ゆきの中に走り出ていました。

きつとだれか悪い人が、あたしのよひようを都へ連れていくのだ。――そう思っつうは、くるったように、あっちこちへ向かってさけびました。

「お願いです！ どうぞあたしのよひようを④引ひっぱっていかないで！ お願いです！ お願いです！」

つうはとうとう、雪ゆきの中にたおれてしまいました。

とうとうつうは、⑤もう「まいだけぬのをおつてあげよう」と決心けつしんしました。

今、ぬのをおらなければ、よひようはおこつてどこかへ行いってしまうだろう――。

(木下順二「夕鶴」より)

(注) 都――ここでは、京都のこと。

やや難

問一 ――線①「美しいさくらの下を、美しい車が行き来しているというあの都へ、一度でいいから行ってみたい」とありますが、このことを別の言葉で言いかえている部分があります。その部分を、文中から十二字で書きぬきなさい。

①「行ってみたい」||「あこがれ」と考えます。

は な や か な 都 へ の あ こ が れ

難

問二 ――線②「つうはおどろきました」とありますが、つうがおどろいたのはなぜですか。その理由を文中の言葉を用いて書きなさい。

(例) もうあのぬのはおらないと、かたく約束したのに、「あのぬのおおってくれ」とよひようが言いだしたから。

①「おどろくはずです」のあとに注目します。また、つうはどの言葉をきいておどろいたのかと考えます。

問三 ――線③「どうしてもぬのをおれ！ おらないと承知しないぞ！」とありますが、この言葉からよひようのどのような気持ちもったいがわかりますか。最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア つうとの約束をやぶってしまったって、悪いと思う気持ち。
イ もし、つうがいやだと言うのなら、無理にはたのまないと思う気持ち。
ウ つうにたのむのはいやだけれど、しかたがないと思う気持ち。
エ いろんなことをしても都へ行き、お金もうけがしたいと思う気持ち。

エ

問四 ――線④「引っぱっていかないで！」とありますが、どこへ引っぱっていくのでしょうか。文中から一字で書きぬきなさい。

都

①「つうは」とだれか悪い人が、あたしのよひようを都へ連れていくのだ」と思ったからこのように言ったのです。

問五 文中の□にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア

①「つうのお願いに対して、「答えはなく」とあるので、反対のつながりになっています。

問六 ――線⑤「もう「まいだけぬのをおつてあげよう」と決心しました」とありますが、なぜつうはこのように決心したのですか。その理由として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア よひようがおこつてどなりちらすのが、こわかったから。
イ よひようがおこつてどこかへ行いってしまうのが、こわかったから。
ウ 元気をなくしているよひようが、かわいそうになってきたから。

イ

①「今、ぬのをおらなければ、よひようはおこつてどこかへ行いってしまうだろう」とつうは思っています。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

① 子ガメはまだまだ泳ぎも潜水も得意ではありません。そのためプカプカと水面にうかんでいることが多く、鳥にみつかつたらかんたんに食べられてしまいます。また、下からは大きな魚にもねらわれます。

② こうした危険を少しでも減らすためカメの背中の上から見た時、深い深い海の色と区別がつきにくいように暗い色になっており、逆に腹側は下から水面にうかぶ姿を見ても明るい空の色と区別がつきにくいように明るい白っぽい色になっているのです。

③ さて、こうして大海原に出た子ガメたち、しばらくの間は岸近くの浅い海で過ごしますが、やがて潮流に乗って沖へ向かいます。沖に出ると海岸近くの水と沖を流れる海流のさかい目に潮目と呼ばれるところがあります。そこにはくきが切れて海底からうかびあがってきた海藻が集まってただよっています。こうした海藻の集まりを流れ藻と言いますが、ここには大きな生物から身をかくしてたくさんの小さな生物が生活しています。

④ 子ガメもこうした流れ藻にかくれて流されてくるエサを食べて過ごすことが多いのです。こうした流れ藻にはいろいろな魚が卵を産みつけたりもします。

⑤ プリという大きな回遊魚も卵を産みます。やがてプリの子どもがふ化してモジャコやワカシと呼ばれる幼魚になります。漁師の人はこのモジャコやワカシをつかまえてイケスの中にいれて養殖し大きなハマチに育てています。

⑥ このモジャコやワカシをつかまえるために漁師は大きな網で流れ藻ごと海からすくい上げます。子ガメも、他の生き物もこのときいつしよにとられ、後からすてられてしまうこともあるのです。

⑦ こうした危険を無事切りぬけた子ガメは大きくなりながら大海原の旅を続けます。

⑧ 大海原を旅しながら子ガメはどんどん大きくなってゆきます。しかし、その間にも鳥や大きな魚に食べられたり、ずっと北の寒い海に流されて死んでしまったり、台風の大波に飲み込まれてしまうものもいるでしょう。でも、こうしたことは自然界ではしかたのないことです。

⑨ 中には船のスクリーンに巻き込まれ死んでしまうものもあります。漁師の網にかかって空気を吸うことができずにおぼれて死んでしまうものもたくさんいます。釣り針にかかった魚を針ごと飲み込んで死んでしまうものもあります。

(注) 回遊魚——成長に応じて、生息するところを移動する魚。
イケス——とった魚を食用になるまで飼育するところ。

(中村庸夫「SOS海ガメを救え」より)

問一 子ガメにとって危険なものとは何ですか。文中から一字と四字でそれぞれ書きぬきなさい。

① 段落に注目します。

鳥

大きな魚

問二 てきからおそわれる危険を減らすためのカメの体の特徴を述べている段落をさがし、段落番号を書きなさい。

② 段落でカメの背中と腹側の特徴が述べられています。

② 段落

やや難

問三 ——線「流れ藻」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「流れ藻」とは、どのようなものの集まりですか。「さかい目」という言葉を使って、三十五字以内でくわしく書きなさい。

① すぐ前の部分に注目します。

(例)

た	海
だ	岸
よ	近
っ	く
て	の
い	水
る	と
海	沖
藻	を
の	流
集	れ
ま	る
り	海
。	流
	の
	さ
	か
	い
	目
	に

(2) 「流れ藻」の役割を述べたものを、ア～オから二つ選びなさい。

- ア たくさんの小さな生物をあちこちに運んでくれる。
- イ たくさんの小さな生物の身をかくしてくれる。
- ウ いろいろな大きな魚のエサになってしまう。
- エ いろいろな魚を養殖するのに使われる。
- オ いろいろな魚が卵を産みつけるところになっている。

③・④ 段落に注目します。

イ・オ (順不同)

やや難

問四 子ガメが死んでしまう原因として自然界の問題とそれ以外の問題があります。自然界の問題を述べたものを、ア～エから選びなさい。

- ア 船のスクリーンに巻き込まれてしまうから。
- イ 釣り針にかかった魚を針ごと飲み込んでしまうから。
- ウ 台風の大波に飲み込まれておぼれてしまうから。
- エ 漁師の網にかかっておぼれてしまうから。

① 自然界の原因は⑧段落で述べられています。

ウ